



日本中央競馬会
特別振興資金助成事業

女性活躍と畜産 —多様性がもたらす 活性化と経営向上—

東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医繁殖育種学研究室 准教授
博士（獣医学）、獣医師

松田 二子（まつだ ふうこ）

PROFILE

- 東京大学大学院農学生命科学研究科 博士課程修了、博士（獣医学）取得
- （株）東レ 医薬研究所 勤務
- 名古屋大学大学院生命農学研究科 助教／准教授
- 東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授

専門分野：家畜繁殖生理学（牛、ヤギを研究に利用）

畜産との関わり：畜産学・獣医学教育に従事

農済獣医師と共同で牛に関する研究を推進

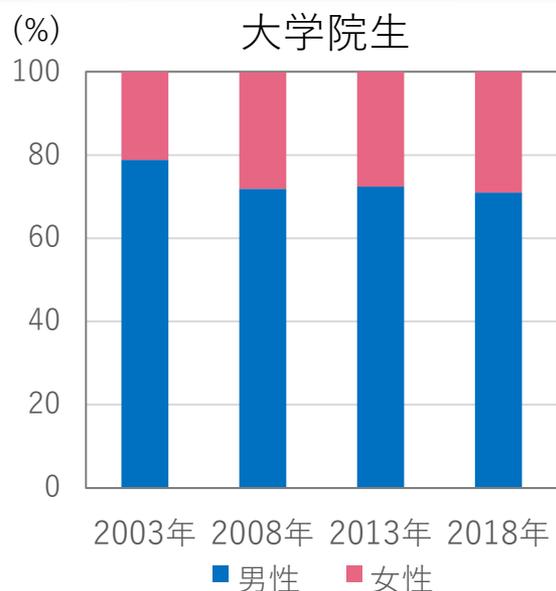
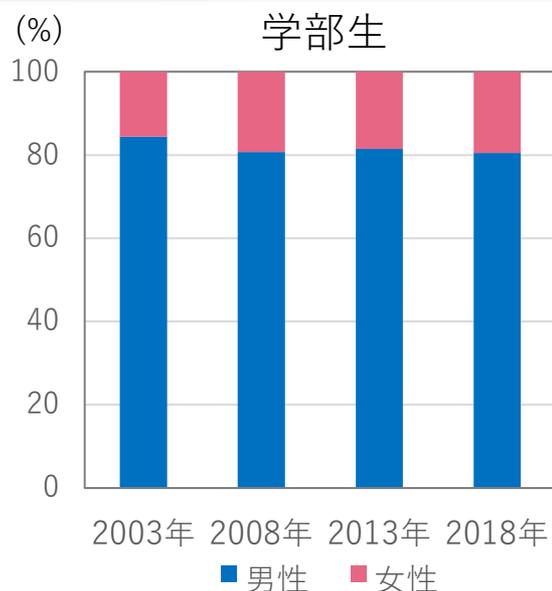
「ジェンダーギャップ指数2020」 <日本は153カ国中121位>

順位	国名	スコア
1	アイスランド	0.877
2	ノルウェー	0.842
3	フィンランド	0.832
4	スウェーデン	0.820
5	ニカラグア	0.804
6	ニュージーランド	0.799
7	アイルランド	0.798
8	スペイン	0.795
9	ルワンダ	0.791
10	ドイツ	0.787
15	フランス	0.781
19	カナダ	0.772
21	英国	0.767
53	米国	0.724
76	イタリア	0.707
81	ロシア	0.706
106	中国	0.676
108	韓国	0.672
121	日本	0.652

分野	スコア(順位)	昨年のスコア(順位)
経済	0.598(115位)	0.595(117位)
政治	0.049(144位)	0.081(125位)
教育	0.983 (91位)	0.994(65位)
健康	0.979 (40位)	0.979(41位)

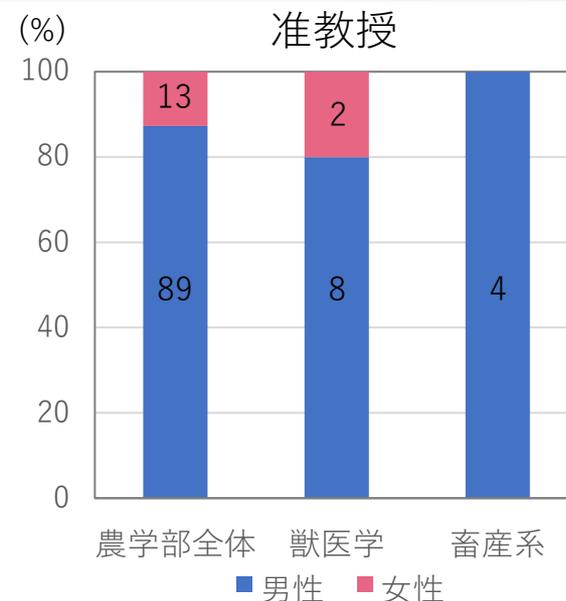
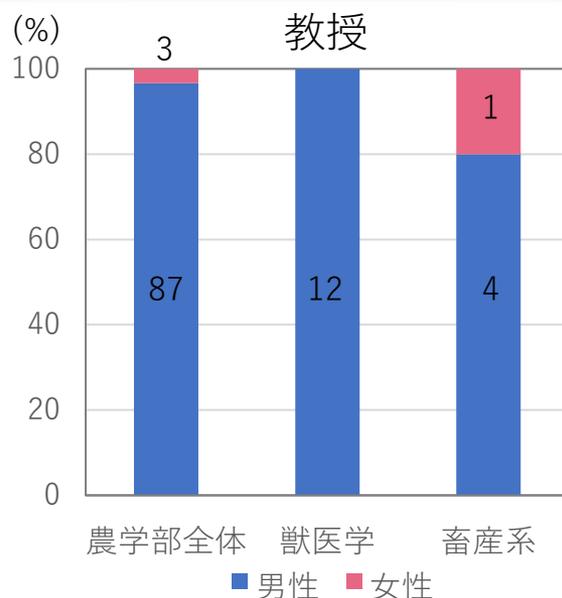
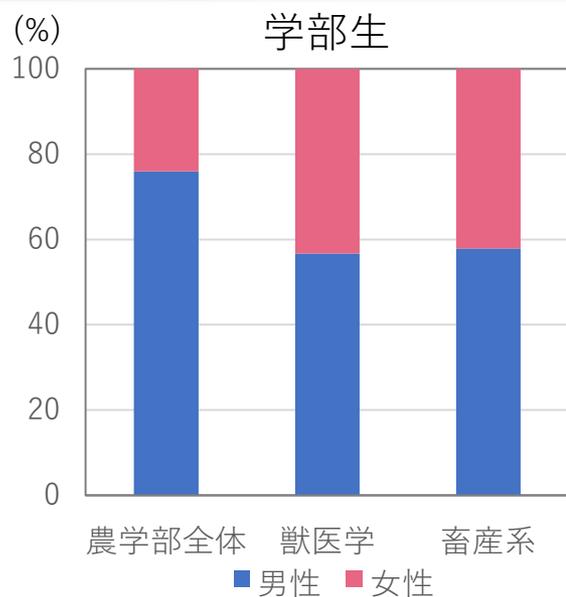
高等教育現場での ジェンダーギャップ

- 東京大学の学生（学部生、大学院生）、教授の男女比率



農学教育と女性

- 東京大学農学部 of 学生、教員の男女比率



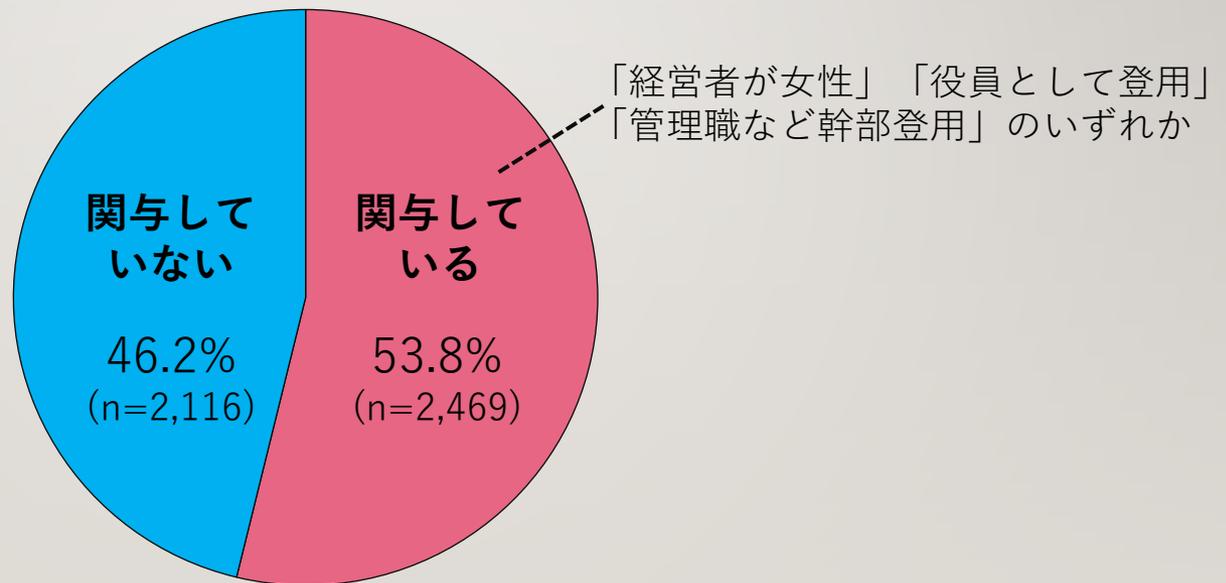
大動物臨床獣医師と女性

- 農業共済組合 家畜診療所 獣医師の男女比率



農業経営と女性

- 女性が経営に関与する経営体の割合：全体の過半数



農業経営と女性

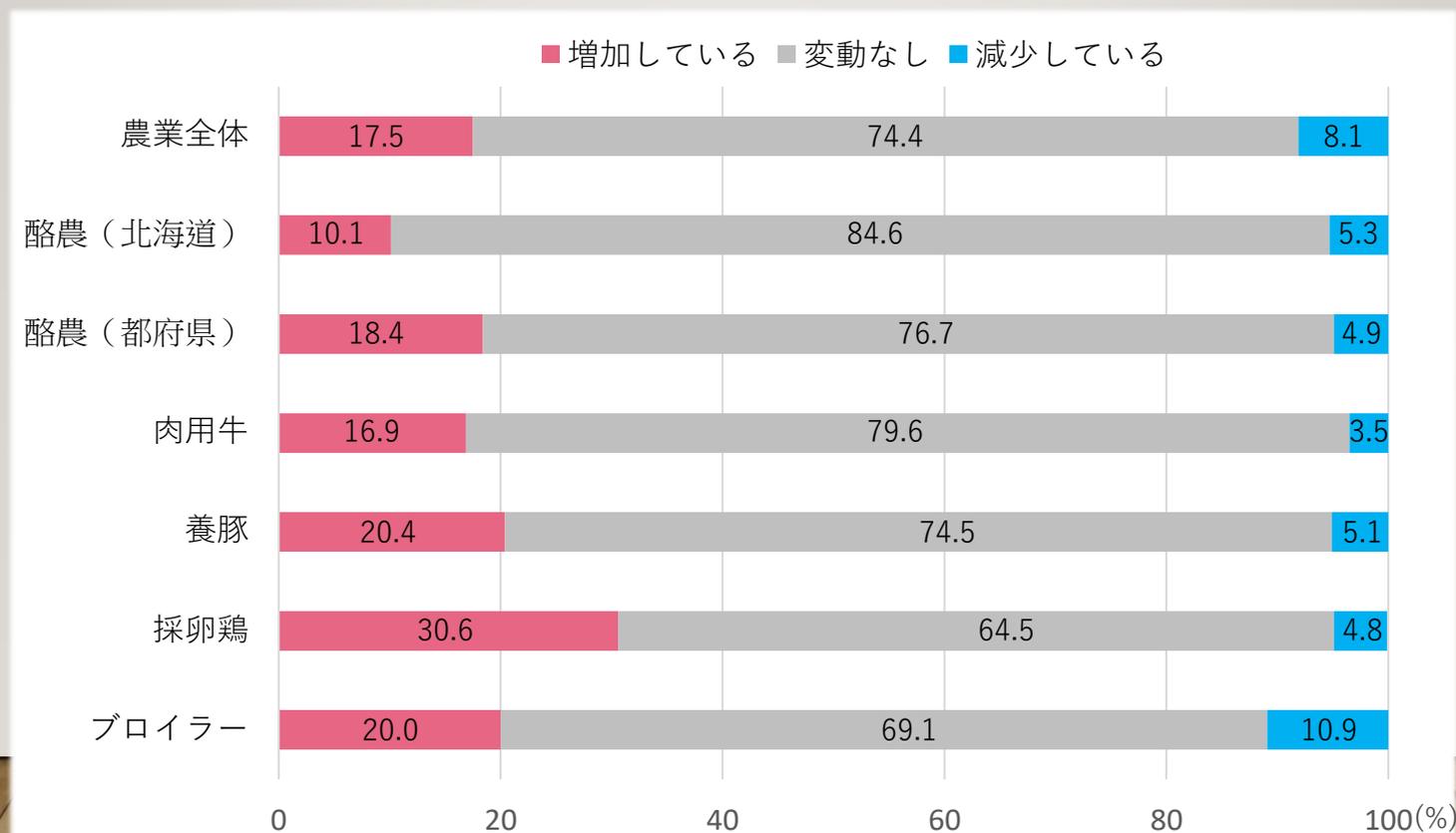
- 女性が経営に関与する経営体の割合：畜産業で高い傾向

業種	経営者が女性である	役員として登用している (家族経営の場合、経営方針に関与している)	管理職など幹部登用しているもしくは事業の一部を委ねている	今後、関与強化を考えている
農業全体	2.6%	33.8%	14.7%	23.3%
酪農（北海道）	5.3%	43.3%	14.4%	20.7%
酪農（都府県）	2.9%	37.9%	21.3%	25.4%
肉用牛	3.0%	42.1%	14.2%	18.9%
養豚	2.7%	41.2%	19.5%	25.7%
採卵鶏	2.4%	38.4%	23.2%	26.4%
ブロイラー	5.5%	41.8%	21.8%	23.6%

畜産

農業経営と女性

- 経営における女性の割合の変化：増加傾向



ジェンダーについての 社会的“刷り込み”

- 性別役割分業意識：夫が外で働き、妻が家事・育児に専念する
- ステレオタイプ
- 家庭でも、社会（保育園、学校、職場）でも
- アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）

畜産と性別役割分業意識 —畜産経営に携わる女性の意見—

- 男性が女性の仕事を決めるとの意識がある
- 女性が主体的に仕事をしているという理解が少ない
- 仕事、介護、育児を女性が負担
- 社会的な役割に男女の別はないことを理解することが必要
- 子供たちに男性優位の考え方を引き継がないことが必要

* 畜産経営に携わる女性26名のアンケート（平成27, 28年度）

なぜジェンダーギャップの是正が必要か？

- SDGs (Sustainable Development Goals:) :
持続可能でよりよい未来を目指す開発目標



- 性別などの属性によらず、個人の特性・価値を生かす
- 多様性は組織を強くする
- 女性が入ると経常利益が上がる

女性の農業経営への関与と収益

- 3年間での売上高と経常利益の増加率

女性の経営への関与	売上高増加率(%)	経常利益増加率(%)
関与している	23.6%	126.6%
関与していない	21.7%	55.2%

1.9ポイント
71.4ポイント

女性が畜産経営に関わるメリット

- 女性に期待すること／優れていると感じていること

(平成28年度 畜産経営における女性の活躍に関する経営主アンケート)

1. 環境美化	: 76
2. 雰囲気づくり	: 52
3. 自分（回答者）とは違う視点	: 48
4. 生産現場での技術	: 35
5. 加工・販売	: 31
6. 従事者の労務管理	: 22
7. 家畜の専門知識	: 21
8. 経営内での情報共有	: 21

* アンケート回答者140人（男性128、女性12）、2つまで回答

女性が畜産経営に関わるメリット

- 女性のアイデアや提案により経営状況や家畜の生育状況に良い効果が出たこと

(平成27, 28年度 畜産経営における女性の活躍に関する経営主アンケート)

1. 分娩、哺育、育成管理の工夫	: 96
2. 経営管理の工夫	: 16
3. 環境美化	: 15
4. 農業女子との交流	: 15
5. 6次産業化（加工部門）	: 13
6. 子牛の防寒対策	: 9
7. 飼養・衛生管理全般	: 8
8. 記帳管理	: 8

* アンケート回答者390人（男性318、女性67）

ジェンダーギャップを克服する： 今後必要なこと

- 男女共同参画／女性活躍：行政、企業、学校等の取り組み
- マスメディアの発信
- 多様なロールモデル
- 意識改革
- 一人一人が気付き、声を上げ、行動する

畜産関連産業における女性参画推進の現状と課題、効果

—各業界で活躍する4名のパネラーより—

- 各業界の女性活躍の現状は？
- 今の仕事に携わるようになった経緯は？
- 苦勞したことは？